

令和4年度大野市スポーツ推進審議会（第2回会議録）

●日時 令和5年3月27日（月）午後7時～8時20分

●会場 エキサイト広場総合体育施設2F会議室

●内容

1 開会あいさつ（山田会長）

年度末のお忙しい中、ご出席いただきましたことをお礼申し上げる。忌憚のないご意見等をお願い申し上げます。

2 議事

（1）令和4年度の事業報告について

事務局から資料に基づき説明【資料1】【資料2】

<質疑応答>

委員：和泉体育館の利用について、近年はほとんど利用実績がないが、何か分析みたいなことはしているのか。

事務局：和泉グラウンドも含めて、夏休みの長期間において、大学生の合宿などで利用いただいていたが、新型コロナウイルス感染症の影響により合宿ができなくなったため、利用がなくなった。令和2年度以降は、地元の方による利用が少しあったという状況である。

委員：和泉体育館の施設そのものの老朽化や使い勝手が悪いということはないのか。

事務局：施設としての耐震性がないということで、近い将来、廃止していく計画である。実際、地元の方が使っているということは、ほとんどない状況であり、和泉地区には和泉小中学校の体育館もあるので、そちらを使う形で進めていきたいと考えている。

委員：2つ目の議題にも関係してくるが、コロナ以前とコロナの真っ只中と、そして今年以降がどうなっていくのか不確定な部分もあるが、スポーツ行事がコロナ以前どおりに開催されようとしている中で、令和5年度の数値がどのように変わってくるのかが非常に気になる場所である。今ほどの和泉体育館やグラウンドは、合宿施設として使われることが多く、コロナの影響によりそれがなくなり、如実に実績として表れ、利用者数がゼロになったことは非常に気になる場所であるが、利用者数が増えている施設も

幾つかあって、その要因となっているようなことが波及してくれば、次の議題のスポーツ推進計画の進捗状況についても良い数値となっていくのではないかと思う。

(2) 大野市スポーツ推進計画の進捗状況について

事務局から資料に基づき説明【資料3】

<質疑応答>

委員：資料1の事業実績にもあるが、今年度、スポーツ推進委員会で予定していた小学生スーパードッジボール大会は、申込件数が少なく中止とした。今後、大野市スポーツ推進委員としても、子どもたちの交流の場を設けていきたいということを考えながらも、なかなか子どもたちだけの大会というのは厳しくなっていくのではないかと考えている。子どもたちがスポーツを楽しんで、大人になっても生涯スポーツとして楽しんでいくことができるということを考えれば、子どもたちのスポーツイベントの充実や拡充は、これから一つ、キーワードになってくる。成果指標については、年齢別の参加データも取っていると思うので、そういったところも今後は分析していただき、小学生スーパードッジボール大会をはじめ、他の種目においても大会が立ち行かなくなっている現状を検討していく必要があるのではないかと考える。

成果指標のスポーツ教室や各種スポーツ大会の実施回数について、令和4年度の実績が226回ということで、たくさんの大会等が実施されたことは非常に喜ばしいことである。今後、毎年、目標数値を見直していくと思うが、既に10年後の目標数値をクリアーしている中で、令和5年度の目標数値をどのように設定していくのか、今後の見通しを教えてください。

事務局：大野市スポーツ推進計画では、10年後の数値目標ということで、ご質問の指標については、年間の延べ回数として200回という目標を設定している。5年後の間では目標数値の検討が必要になってくることもあるのではないかと考える。

委員：226回という数値は、例年と比べると突出した数値なのか。

事務局：コロナ以前の数値を持ち合わせていないので、確認する。

委員：5年後の中間時点で上方修正するのか、下方修正するのかということについては、今年度の数値だけを見るのではなく、推移を見ながら判断した方

が良い。数値を維持していくことも難しいので、慎重に判断をすべきである。今年度の数値に関して、情報が分かったら教えていただきたい。

確認であるが、10年後というのは、令和13年度ということで良いか。

事務局：そうである。

委員：指標のスポーツ指導者公認資格の新規取得者数について、10年後の目標が累計で80人となっており、それは年ごとに平均して8人程度をクリアすれば、最低ラインはクリアーし、同じようにスポーツイベントの開催や誘致の指標についても同様ということで良いか。

事務局：そうである。

委員：指標の一つ目の市民1人当たりの体育施設利用回数については、たくさん利用される人とそうじゃない人との区別は、非常に大事な観点である。これは資料2の数値の影響が大きく、まんべんなく市民全体に対して、年齢層も関係なく上がっていくということが必要で、それに対してイベントや大会の実績が連動してくれば、この計画自体が有機的に機能してくるのではないかと考える。今年度はもう今週で終わり、来週からは新年度に入っていくが、いろんなスポーツイベントが実施されていく中で、目標数値がどのようになっていくのか、見守る必要がある。

事務局：補足として、令和4年度はいろんなスポーツ施設の改修などを行い、より使いやすくなったのではないかと考えている。より多くの方に利用いただけるよう、今後も十分にPRをしていく。

(3) 令和5年度当初予算の基本方針及び主な事業等について

事務局から資料に基づき説明【資料4】【資料5】

<質疑応答>

委員：真名川憩いの島の改修については、野球場グラウンドのみの改修なのか。

事務局：野球場グラウンドの改修工事は、現在、完成間近で、数日後に完了検査を予定している。

委員：基本方針の3つ目の安全で快適にスポーツ施設を利用できるようにとあるが、真名川憩いの島は野球場が2つあり、下流側のグラウンドについては、1塁と3塁側ベンチの後ろにはネットがなく、車が通る車道にも面しているため、事故等が起きる前にしっかりとネットを張るなどの対応を考えてほしい。

青年会議所主催のわんぱく相撲では、いつもご協力をいただいていることをお礼申し上げます。昨年、3年ぶりに開催したが、これまでは、参加する子どもたちの申し込みの取りまとめや学校で練習を行って大会へ参加するという形であった。しかし、昨年の開催では、参加の取りまとめや練習について、学校側ではできないという形になったため、練習を相撲協会にお願いしたが、練習回数は1人につき1回しかできなかった。中には、1回も練習できずにぶっつけ本番で出る子どももいて、相撲の取り組みへの入り方も分からないという状況が起きた。今年は、青年会議所への申し込みやグーグルフォームを使った申し込みという形で対応したが、今後、参加したくても、参加方法等の事情により参加できないという子どもたちが出てきそうなので、そういう時に色々なご協力をいただけると有り難いということで、意見として述べさせていただいた。

事務局：わんぱく相撲のお話をいただいたが、当課のイベントなどにおいても、チラシの配布は学校にお願いするが、申し込みについては、スマホからのQRコードやメール、電話、申込書などで当課に直接に申し込んでいただくという形を取っている。今はまだ過渡期であり、これからもう少し浸透してくれば、そういった申込方法で保護者の方もたくさん申し込んでくださるのではないかと考える。今後においても、当課のイベントもそういった形で実施していきたいと考えており、もう少し様子を見ていただきたい。

委員：今の五十嵐委員のお話は、まさにスーパードッジボール大会と同じような状況である。教員の働き方改革ということは、当然に推進していかなければならないことではあるが、その一方で子どもたちのスポーツイベントに参加する機会をどうやって確保するのかということは、考えていかなければならない大きな課題である。普段からスポーツ少年団でしっかりとスポーツをしている子どもたちは良いが、あまりスポーツに馴染みがない子どもたちをどうやってカバーしていくのかといったことを、こういった場で智慧を出し合うことが必要だと感じている。

委員：スポーツ推進計画は底辺の拡大ということで、子どもたちのスポーツに関わる機会をなるべく確保して、それが10年後、小学生であれば高校生や大学生というところまで、それがもう少し年齢が行けば成人になっている

ということで、長期的なスパンを見据えて立てた計画である。ただ、色々な社会的な変化もあって、子どもたちへの機会を確保するのも難しくなってきたというところをどのようにカバーしていくのかということは、多分、これは大野市だけではなくて、どの市町でも同じような状況であると思うが、それをどのようにそれぞれの市町に応じた形に落とし込んでいくのが、難しいところではあるが、とても大事なところであるということ、今のお話を聞いて私自身、改めて感じた。

委員：確認ではあるが、まちなか交流センターや結とぴあの体育館の利用者数は、今回の資料の数値には反映されているのか。

事務局：カウントしていない。

委員：それぞれ管轄が異なるからだとは思いますが、大野市のスポーツ全体としての数値としてはどうなのか。

事務局：他のスポーツ施設の所管課に対して確認し、集計ができていれば、この場での参考資料として報告する。

また、子どもたちが参加する教室について、今年度は新たな取り組みとして、夏休みや冬休みを利用してのエキサイト広場総合体育施設を活用した、普段からスポーツ少年団で活動している子どもたちだけではなくて、いろいろな子どもたちが参加して、いろいろなスポーツを体験できるエキサイトウィークを開催した。またB&G海洋センターを利用して、夏休みのプールを中心にいろいろなスポーツ体験ができるBG塾を数年前からではあるが開催しており、今年度においては冬休みも開催し、障害者スポーツを体験できる機会などを設けた。今後においても、いろいろな子どもたちに、いろいろなスポーツが体験できる機会を設けていきたい。

事務局：先ほどの指標、スポーツ教室や各種スポーツ大会の実施回数について、平成28、29、30年度の数値を申し上げる。まず平成28年度は165回、29年度は166回、30年度も166回である。

委員：大体160回前後がコロナ以前だったということで、それに比べて令和4年度の数値がどうしてここまで多くなったのか、その辺りをどのように考えているのか。

事務局：教室を開催する中で、これまでは単発での開催が多かったが、今年度は、例えばエキサイトウィークやBG塾については数日間という日程で開催

しており、1日が1回としてカウントしている。これら以外にも何回かでのシリーズで開催しているケース、例えば高齢者向けに数回シリーズで開催したすわるビクス教室はとても好評だったため、トータルで10回開催したというような状況もあり、そういったことで回数的に増えたと考えている。

委員：一旦、実績数値の推移を見ながら、中間的な時点で上方修正するのかどうかというところは、引き続き検討の余地があるということで、今後も見ていきたい。

委員：資料4の令和5年度の主要な事業の、越前大野名水マラソン開催事業のところで、クラウドファンディングを実施して資金調達を呼び掛け、第60回の記念大会をその資金を基に盛大に計画していくのではないかと思うが、まずはその前にこの5月に開催される第59回大会は、脱コロナの従来の形で開催されるということで楽しみにしている。そして、さらにその先の第60回大会でのクラウドファンディングでは、こういった呼び掛けをするのか、寄付いただいた資金をどのように活用するのかなど、見通しについてはどのように考えているのか。

事務局：現時点では、そこまでの案はない。ただ、この5月に開催する第59回大会については、ゲストランナーを招待しない形で開催する。第60回大会は記念大会となるため、やはりどなたかをゲストランナーとしてお呼びする形での開催になると考える中で、皆様方にクラウドファンディングの呼び掛けを考えている。

(4) その他

<意見・質問等なし>

事務局から事務連絡

- ・ 次回の会議

開催時期 令和5年10月上旬

- ・ 令和5年度定期人事異動による事務局あいさつ

田中部長・横田課長あいさつ

3 閉会あいさつ（長谷部副会長）

田中部長及び横田課長におかれては、本当にお疲れ様であった。本日、昼のニュースで、先のWBCで大活躍した本市出身の中村悠平選手を讃える横断幕が市役所

庁舎に掲出されたことが放送された。本日の資料でも報告があったが、トップアスリート等招へい事業補助で、中村選手を招いて少年野球の講習会が開催されたり、また我々一般市民もWBCの試合を固唾を飲んで見守っていた訳であるが、スポーツというものに大変勇気づけられた。スポーツの魅力や効果を市民に提供しながら、令和5年度も引き続き委員の皆様のご意見を参考にして、頑張って取り組んでいきたいと改めた感じた。本日は、年度末の大変お忙しい中に出席いただき、また貴重なご意見をたくさん頂いたことをお礼申し上げます。